

Reciprocal Teaching を用いた読みの学習の研究

小田野 絃子

1. はじめに

授業参観をすると、毎回、目立つことはないが、陰で黙々と頑張っている学習者に目がいていた。彼らの内ではどのような学びが展開されているのだろうか。目立たないが陰で黙々と頑張っている学習者に目を向けてみたい。このような思いから、本研究では Reciprocal Teaching という学習方法論に注目した。

Reciprocal Teaching とは、我が国では相互教授法などと訳され、1980年代にアンネマリー・パリンサー (Palincsar, Annemarie.S.) とアン・ブラウン (Brown, Ann.L.) によって提唱された。Reciprocal Teaching の概要は、簡単に言えば、4つのストラテジー：予測・明確化・質問・要約を用いて、主に学習者同士の対話や話し合いを重視して読みを展開していく学習方法論である。つまり、読みの過程を他の学習者と関わりながら進めていくものである。元々、読みの能力に問題のある学習者のためというねらいから出発した方法であるが、近年では通常の読みの能力を持つ学習者のクラスでも取り入れられるようになってきている。優秀で活発に活動する目立つ学習者ではなく、目立たないが学ぶ意欲を持った学習者に光をあてたというねらいが本研究の問題意識と重なったのである。

通常のクラスで取り入れられてきているということではあるが、これは主にアメリカでの報告であった。そのため、まずは、日本の学校教育の中で Reciprocal Teaching が取り上げられているのかどうかを調査した。その結果、管見ではあるが、理科教育分野と日本語教育分野で取り上げられていることが分かった。これに対し、国語科教育分野の中ではこれまでにほとんど取り上げられていないことが明らかとなった。

では、なぜアメリカでは有効性が支持されている Reciprocal Teaching が、日本の国語科教育分野では取り上げられてこなかったのだろうか。そ

の理由の1つは、両国の国家的な状況の違いが考えられる。アメリカでは、英語を母語としない移民がかなりの数を占めており、読みの能力に問題のある学習者が多数存在している。しかし、日本の理科教育分野などで Reciprocal Teaching が取り上げられていることを考慮すると、この両国の国家的な状況の違いだけが、日本の国語科教育分野に Reciprocal Teaching が取り上げられていない理由だとすることはできない。理科教育分野などの他教科で取り上げられていることを考慮すると、国語科教育分野では、Reciprocal Teaching を取り上げなくとも我が国の従来理論で事足りている可能性があることが考えられる。それに加え、読みの能力を要素やストラテジーとして細かく切り離して捉えていくことに抵抗感を持っているのではないかということも考えられる。

そこで、日本の国語科教育分野の実践場面において、Reciprocal Teaching の知見を応用することの可能性を見出し、Reciprocal Teaching を用いた授業を行う。その中で、以下の問題を考究することが本研究の目的である。

- ① Reciprocal Teaching の成立から今日的展開に至るアメリカでの実践及び研究を史的に整理すること。
- ② 日本の教育学研究において、Reciprocal Teaching を応用した先行研究や実践を整理すること。
- ③ 日本の国語科教育分野において、Reciprocal Teaching と同様の実践及び研究の有無とその実態を検討すること。
- ④ Reciprocal Teaching を国語科教育分野の実践場面において、Reciprocal Teaching を用いた授業を行うことでどのような効果が得られるのかを臨床的に検証すること。

2. 研究の概要

前述した4つの問題を解明するために、次のような研究の手順で構成した。第1章では、Reciprocal Teaching に関する史的整理と研究課題の設定を行った。第2章では、日本の Reciprocal Teaching に関連した先行研究通覧（日本語教育分野・理科教育分野・国語科教育分野では、芦田恵之助の読み方教授法・協同的学習）を行った。第3章では、Reciprocal

Teaching を用いた読みの学習の実践的検証を、公立中学校をフィールドとして、Reciprocal Teaching を用いた授業と用いない授業とを行い、その授業について量的分析及び質的分析を行った。終章では、導き出された研究の成果と今後への課題を考察した。

3. 研究の実際

本研究の成果は、簡潔に述べると次のように結論される。すなわち、Reciprocal Teaching は日本の国語科教育分野にも応用でき、特に読解力の下位の学習者において自己学習力の形成による読解力の向上がみられることである。以下に前述した本研究の目的と照らし合わせて詳しく本研究の成果を述べる。

① Reciprocal Teaching の成立から今日的展開に至るアメリカでの実践及び研究を史的に整理すること。

第1に、読解力に問題がある学習者への効果的な指導を目指して成立した Reciprocal Teaching であるが、近年では平均的な読解力を有するクラスにおいても広く実施されているということである。

第2に、Reciprocal Teaching の基盤をなす研究が、成人の読みの熟達者におけるリテラシーの機能分析に基づくという点である。

第3に、Reciprocal Teaching の実践を支える理論的背景が、学習者の能力形成は社会的なコミュニケーションを経験することによって育成されるという立場を取るヴィゴツキーに発祥する社会的構成主義教育学に基づいていることである。

② 日本の教育学研究において、Reciprocal Teaching を応用した先行研究や実践を整理すること。

Reciprocal Teaching を応用した先行研究・実践として、日本語教育分野と理科教育分野を取り上げた。日本語教育分野ではピア・リーディングと呼ばれ、Reciprocal Teaching とほぼ同じものを応用したことがみられた。理科教育分野では、Reciprocal Teaching と同じストラテジーを応用することと共に独自のストラテジーを開発し、発展的な応用がみられた。

③ 日本の国語科教育分野において、Reciprocal Teaching と同様の実践及

び研究の有無とその実態を検討すること。

Reciprocal Teaching と関連すると思われる先行研究として、芦田恵之助の読み方教授法と佐藤公治の協同的学習を取り上げた。Reciprocal Teaching のストラテジーと部分的に重なる実践もみられたが、読解力が下位の学習者への配慮が十分ではないこと、学習者の読みのメカニズムという視点に立ったストラテジーへの見通しが十分でなかったことなどの問題もみられた。

④ Reciprocal Teaching を国語科教育分野の実践場面において、Reciprocal Teaching を用いた授業を行うことでどのような効果が得られるのかを臨床的に検証すること。

第1に、Reciprocal Teaching を用いることによって、多くの学習者に読解力の向上が認められたが、特に読解力の下位者に読解力の向上がみられた。

第2に、多くの学習者が読解力の向上をみせたが、その要因は4つのストラテジーによる関わりに見出されるということが抽出した読解力が下位の学習者の質的分析から明らかとなった。

第3に、Reciprocal Teaching に対して熟知していない我が国の国語教師でも、当人が得意とする指導方法と同程度の効果をもってこれを実践することが可能であった。

4. 今後への課題

今後の課題としては、次の3点を挙げる。

(1) 学習者自身のモニタリング

Reciprocal Teaching では学習者自身が今自分が何をしているのかをメタ認知することが重視されている。本研究においてもその点を考慮して授業を構成することを心掛けた。授業の始めに今日はどのようなストラテジーを用いて学習するのかを明示するようにした。しかし、全授業終了後のインタビューにおいて、予測や明確化などを時間ごとに一つひとつ分けて行ったので、一つひとつを理解して次にその理解を利用してやっていけたからわかりやすかったと発言した宮島さん(仮名)のように、ストラテジーを意識しながら学習を進めていったのかを判断するこ

とが今回の授業構成では難しい。学習者自身のモニタリングの仕方を今後検討していきたい。

(2) 学習者の読み誤りや授業態度における教師の介入

グループ単位での話し合いによって大部分の学習がなされるため、教師1人では対応しきれない場面が確認された。漢字の不適切な分節や読み誤り、私語のためにやるべきことがおろそかにされている学習者の授業態度がそのままにされていた。現在の学校環境においては、ほとんど教師1人で授業を担当することが多く、通常のクラスで行うことを考えると、教師の介入の仕方にも問題が残る。教師の適切な介入の仕方を今後検討していきたい。

(3) 批判的思考力の育成

Reciprocal Teaching では、文章の内容を確実に読むことが目標とされているため、批判的思考力の育成などの発展的な読みを展開することまでは考慮されていない。もともと Reciprocal Teaching は文章の内容を確実に読むためとはっきりと宣言されて成立してきたものであるため、批判的思考力の育成などの発展的な読みを Reciprocal Teaching に求めること自体が無理なことであるのかもしれない。しかし、我が国の読みの学習を考える際には、発展的な読みも無視できないものである。Reciprocal Teaching の知見を用いながら、批判的思考力の育成もできる方法を今後検討していきたい。

5. 最後に

私は現在、中国・上海市にある上海日本人学校（浦東校）に勤務し、中学2年生（約200人）の国語科を担当している。日本人学校といえども、在外教育施設であるため、様々なバックグラウンドを持っている生徒が通学している。海外生活は中国が初めてだという生徒から、一度も日本に住んだことがない海外生活の長い生徒もいる。まだ赴任して間もないため断定することはできないが、RTが成立した経緯と同じような状況があるように感じている。今後、RTをぜひ自分の授業の中で試みようと思っている。

【引用・参考文献】

- 秋田喜代美・恒吉僚子・佐藤学編集(2005)『教育研究のメソドロジー 学校参加型マインドへのいざない』 東京大学出版会
- 秋田喜代美 編集(2004)『子どもたちのコミュニケーションを育てる 対話が生まれる授業づくり・学校づくり』教育開発研究所
- 秋田喜代美・石井順治 (2006)『ことばの教育と学力』明石書店
- 秋田喜代美・久野雅樹 (2001)『文章理解の心理学 認知, 発達, 教育の広がりの中で』北大路書店
- 秋田喜代美 編著者(2006)『放送大学教材 授業研究と談話分析』放送大学教育振興会
- 芦田恵之助(1987)『芦田恵之助国語教育全集第7巻読み方実践編その一』栄泰印書館
- (1987)『芦田恵之助国語教育全集第8巻読み方実践編その二』栄泰印書館
- (1987)『芦田恵之助国語教育全集第9巻読み方実践編その三』栄泰印書館
- (1987)『芦田恵之助国語教育全集第10巻読み方実践編その四』栄泰印書館
- (1987)『芦田恵之助国語教育全集第11巻読み方実践編その五』栄泰印書館
- (1987)『芦田恵之助国語教育全集第12巻易行道・教壇・教式編』栄泰印書館
- 植田一博 岡田猛編著(2000)『認知科学の探究 協同の知を探る 創造的コラボレーションの認知科学』共立出版株式会社
- ヴィゴツキー(2003)『「発達の最近接領域」の理論—教授・発達過程における子どもの発達』土井捷三 神谷栄司訳 三学出版
- (1975)「子どもの知的発達と教授」柴田義松・森岡修一訳 明治図書
- 清河幸子 犬塚美輪 (2003)「相互説明による読解の個別学習指導—対象レベルメタレベルの分業による協同の指導場面への適用—」(『教育心理学研究』51号 pp218-229)
- 国語教育研究所編 (1991)「国語研究大辞典 普及版」明治図書
- J.T.ブルーアー(1997)『授業が変わる 認知心理学と教育実践が手を結ぶとき』松田文子 森敏昭監訳 北大路書房
- J.V.ワーチ(2002)『行為としての心』佐藤公治 田島信元 黒須俊夫 石橋由美 上村佳世子訳 北大路書房
- 斉藤恵(2004)「年少者 JSL におけるスキヤホールディングの必要性」(『年少者日本語教育実践研究 vol.2』早稲田大学)
- 佐藤公治(1996)『認知心理学からみた読みの世界—対話と協同的学習をめざして—』

北大路書房

— (1999)『対話の中の学びと成長』金子書房

佐藤学(1996)『教育方法学』岩波テキストブックス

高垣マユミ (2001)「高さのプリコンセプションを変容させる教授ストラテジーの研究」(『教育心理学研究』49号 pp274-284)

— (2004)「大学生はいかに力のプリコンセプションを変容させるか」(『発達心理学研究』15号 pp217-229)

— (2005)『授業デザインの前線 理論と実践をつなぐ知のコラボレーション』北大路書房

高垣マユミ・田原裕登志(2005)「相互教授が小学生の電流概念の変容に及ぼす効果とそのプロセス」(『教育心理学研究』53号 pp551-564)

館岡洋子(2000)「読解過程における学習者間の相互作用—ピア・リーディングの可能性をめぐる—」(『アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター』23号 pp25-50)

— (2001)「読解過程における自問自答と問題解決方略」(『日本語教育』日本語教育学会 111号 pp66-75)

— (2003)「読解授業における協働的学習」(『東海大学紀要』東海大学留学生教育センター 23号 pp67-83)

— (2006)「読解授業における教師主導と協働的学習—2つのアプローチから協働の教室デザインを考える—」(『東海大学紀要』東海大学留学生教育センター)

— (2004)「対話的協働学習の可能性—ピア・リーディングの実践からの検討—」(『東海大学紀要留学生教育センター』24号 pp37-46)

谷口すみ子(1991)「思考過程を出し合う読解授業：学習者ストラテジーの観察」(『日本語教育』75号 pp37-50)

日本教育工学会編(2000)『教育工学辞典』実教出版

日本認知科学会編(1991)「認知科学の発展 vol.4」講談社サイエンティフィック

野地潤家(1983)「第一巻 読み方教式編」明治図書

橋内武 (1999)『ディスコース 談話の織りなす世界』くろしお出版

バフチン, M.M.(1996)『小説の言葉』伊藤一郎訳 平凡社

バリー・J・ジーマーマン デイル・H・シャンク(2006)『自己調整学習の理論』塚野州一編訳 伊藤崇達・中西良文・中谷素之・伊田勝憲・犬塚美輪訳 北大路書房

平山満義(1997)『質的研究法による授業研究—教育学/教育工学/心理学からのアプロ

一チー』北大路書房

藤井知弘 (1998)「読みの交流における対話の実相—会話分析を中心に—」(『読書科学』42号 No.2 pp73-81)

米国学術研究推進会議 (ジョン・ブランスフォード アン・ブラウン ロドニー・クッキング) 編著(2002)『How People Learn—認知心理学のさらなる挑戦』森敏昭 秋田喜代美監訳 21世紀の認知心理学を創る会訳 北大路書房

三浦香苗・村瀬喜代子・西林克彦・近藤邦夫 (2000)『発達と学習の支援』新曜社
山内光哉・青木豊 (2001)『グラフィック 学習心理学』サイエンス社

Brown, A. L., and Palincsar, A. S. (1982) "*Inducing strategic learning from text by means of informed, self-control training.*" *Topics in Learning and Learning Disabilities 2*: pp1-17

Hammond, Jennifer.(2001)"*Scaffolding: teaching and learning in language and literacy education*" PETA, Primary English Teaching Association

Hashweh, M.Z.(1986)"*Toward an explanation of conceptual change*" *European Journal of Science Education 8* pp229-249

Hartup.W(1989)"*Social relationships and their developmental significance*" *American Psychologist 44* pp120-126

Hashweh, M.Z.(1988)"*Descriptive studies of students' conceptions in science*" *Journal of research in science teaching 25* pp121-134

Herrenkohl, L.R, &Guerra, M.R.(1998)"*Participant structures, scientific discourse, and student engagement in fourth grade*" *Cognition and Instruction 16* pp433-475

Jennifer Whittle(1998)"*The influence of reciprocal teaching on the quality of questions students write from texts*" (『青山学院大学』39号 pp11-27)

Lori, D.Oczkus(2006)"*RECIPROCAL TEACHING at Work :Strategies for Improving Reading Comprehension*" International Reading Association

Palincsar, A. S., and Brown, A. L., (1984) "*Reciprocal Teaching of Comprehension -Fostering and Comprehension- Monitoring Activities*" *Cognition and Instruction, 1 (2)* pp117-175

Palincsar, A. S., and Brown, A. L. (1986) "*Interactive teaching to promote independent leaning from text.*" *Reading Teacher 39* pp771-777

Palincsar, A. S., and Brown, A. L. (1989) "*Classroom Dialogues to Promote*

Self-Regulated Comprehension "Advances in Research on Teaching, Volume 1
pp35-71

Palincsar, A. S., Ransom, K., and Derber, S. (1988) "Collaborative research
and the development of reciprocal teaching." *Educational Leadership* 46 pp37-40

Palincsar, A. S. (1985) "The Unpacking of a Multi-Component, Metacognitive
Training package" American Educational Research Association

(おだの ひろこ 中国・上海日本人学校 浦東校 中学部教諭)